

令和8年度上大久保中学校だより

上中だより

第2号

令和8年5月7日(木)

学校教育目標

「温かい学校 感動あふれる学校」

さいたま市立上大久保中学校

〒338-0824 さいたま市桜区上大久保861-1 TEL855-3901

<http://kamiokubo-j@saitama-city.ed.jp>

「薫風（心に吹く風）」

上大久保中学校長

淡いピンクから鮮やかな新緑へ。春の彩りは、生物全体に躍動感を与えてくれるようです。新年度が始まり、早1ヶ月。生徒達の元気な声が学校全体を包み込み、心地よい風が吹き抜けています。

さて、五月は風薫る爽やかな気候です。このゴールデンウィーク期間内に私の自宅（埼玉県北東部）周辺では、田植えがちょうど終わり、その田園風景を鯉のぼりが群れをなして雄大に泳いでいる姿が今年も圧巻でした。最近、町おこしや地域おこしも相まって、鯉のぼりを見る機会も増えつつあり、何とも嬉しい気分になります。鯉のぼりは、勇壮な子どもの出世を願い、武者のぼりを立てる武家社会の風習を模倣し、江戸時代中期に、町人が考えたアイデアとも言われています。中国に古くから伝わる登竜門の伝説になぞらえ、竜門の滝を登り切ると鯉が竜になるように、我が子も健康に育ち、将来は大きく出世してほしいとの願いから生まれたものだそうです。大空を見上げながら清風の中泳ぐ鯉のぼりに、誇り高き上大久保中の生徒たちの成長を願うものです。

さて、元気いっぱい泳ぎだした鯉のぼりですが、風がなければ元気に泳ぐことができません。どこか、生徒たちの元気さに共通するような気がします。元気の源は、様々な生活場面での欲求の充足であり、認められているという存在感、目標が達成できたという成就感などにあると思います。

鯉のぼりが5月の風を受けて元気に泳ぐように、充足感・存在感・成就感といった「風」を受けて生徒達は元気に活動できると考えると、私達、大人の役割は重要になり、様々な支援が必要になってきます。学校・家庭・地域で、引き続き大きな「風」を起こし、上大久保中生徒441名全員が、今以上に元気あふれ前向きに、思いやりのもった心と、自分のペースで成長できるようにしていきます。

私事ながら、4月26日（日）に私にとって念願の硬式テニスシングルス一般の部、埼玉県大会予選に出場する機会を得ました。埼玉県内各地区を勝ち抜いてきた選手が集まり、緑のまぶしさが目に映え、初夏のような気候に包まれた大宮第二公園で、ハイレベルな熱戦が繰り広げられました。私は地元の町の代表となったことで少しでも恥ずかしくない試合を行いたいと、中学生のテニスアカデミーに参加させてもらい、日々厳しい実践練習を積んできました。しかし、相手のパワーと技に圧倒され、早々と敗退し、勝負どころで攻めずにサーブやストロークをただ入れにいたり、自分の心の弱さを感じる場面も多々ありました。20代30代が多く出場する中、最高齢での出場という意味では感慨深いものもありました。

普段校長として、日々の部活や大会で生徒たちを全力で応援しているのですが、逆に選手の立場を緊張感をもって味わえたことは大きな財産です。生徒たちに「頑張れ!」という言葉だけでなく、私自身も何か、がむしゃらに頑張っている姿を背中で見せたいかと常日頃思っています。大人として、振る舞いや行動で、背中でもものが語れるよう精進していく所存です。生徒たちが自分の目標に向かって努力する姿あふれる上大久保中でありたいとも考えます。

「チャレンジしている姿は神々しい。チャレンジはいつ始めても遅くはない。」。大人も子どもも、誰でも。